





【凡例】

- 北恵那バス馬籠線
- 通行止めの場所
- バス停留所



リノベーションした上見屋外観 撮影：中尾俊介

# つけちレター Vol.6

2022年11月

## News 「付知地域デザインミュージアム」オープン

10月15日(土)に、中津川市と東京大学交通・都市・国土学研究室の共同プロジェクトである「付知地域デザインミュージアム」がオープンしました。付知銀座で明治8年に創業した上見屋さんの一部をリノベーションした「地域のための空間」です。

歴史ある建物の外観を活かしつつ、内装は一変。コンクリートの床やスタンドのスタイリッシュさと、小上がりや畳の懐かしさが一緒になった、とても魅力的な空間となっています。設計には Infrac・北原建築・芝浦工科大学大山雄己研究室・東京大学交通・都市・国土学研究室が取り組み、付知の職人のみなさんから全面協力をいただきました。

ミュージアムではインタビュー映像「付知に聞く」の放映、カフェ「AGAIN COFFEE STAND」の営業、付知の商品を扱う物販が行われ、どなたでも気軽に訪れることのできる空間となっています。さらに、通りの向こう側には水盤や芝生、ベンチで寛ぐことのできる「辻広場」も合わせて開設されました。みなさまの訪問をお待ちしております！

また、ミュージアムの活用方法については引き続き付知のみなさまと一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



## モビリティサービス「付知 bin」の社会実験を実施しました

10月15日(土)・16日(日)に付知地域デザインミュージアム開設に併せ、中津川市と東京大学交通・都市・国土学研究室の共催、(株)豊田中央研究所の協賛で社会実験を実施しました。ミュージアムのオープニングに加え、3つのモビリティサービス、さらには自動運転車両の展示会という盛りだくさんな内容で、付知内外から多くの方にご参加いただきました。ありがとうございました！紙面の関係上、一部ですが内容・結果をご報告いたします。

## オープニングセレモニー・シンポジウム

15日(土)に付知地域デザインミュージアム開設を記念し、式典とシンポジウムが開催されました。午前の式典では祝辞を頂戴したのち、リノベーションに携わった方々による対談が行われました。リノベの設計者の佐多さん、辻広場の設計者の大山さんからは付知の地域資源である木材や水を活かしてデザインしたこと、施工者の北原さんからは付知の職人さんが技術を結集してリノベに取り組んだこととお話し頂きました。さらに施主である上見屋主人の早川さんからは「変化することで継承してきた」上見屋の歴史の中で、150年の節目を機に世紀の大改修を決意した経緯が語られました。午後の地域デザインをテーマとしたシンポジウムでは、付知・浪江・松山・那覇など各地で地域デザインに取り組む研究者による議論が行われました。



オープニングセレモニー・対談の様子  
左から北原典明氏(北原建築) 早川篤志氏(上見屋)  
青山節児氏(中津川市長) 羽藤英二(東京大学教授)  
佐多祐一氏(Infras) 大山雄己氏(芝浦工業大学准教授)



▲上見屋バス停を出発するシャトルバス

## モビリティサービス

## シャトルバス【道の駅⇄ミュージアム】

道の駅「花街道付知」でのレディース・クラフトフェア開催もあり、市内外から計157名の方に乗車いただきました。車内聞き取り調査では、付知町外からお越しの方のうち6割が「シャトルバスがなければミュージアムには来ていなかった」と回答しており、付知の拠点として賑わう道の駅周辺から付知銀座周辺に人を呼び込む一策としての可能性が示されました。



▲ミュージアム内での聞き取り調査の様子

## デマンドバス【付知町全域⇄ミュージアム】

計28名の方に乗車いただきました。周知や集客が課題となる結果でしたが、観光客の方からは「車がなくても付知峡や温泉を満喫できてよかった」、地元の方からは「普段は送迎をお願いすることになり気を遣うが、バスのおかげで自由に動けた」といった声が聞かれました。

## 北恵那交通木筒切符【中津川駅前⇄倉屋温泉フリー切符】

売り上げは計18枚でした。岐阜県外からの観光利用が多かったです。モビリティサービスを利用された方には付知銀座での買物で利用できるクーポンを配り、土産物の購入などに利用いただきました。



▲自動運転車両の展示会

## 聞き取り調査

付知町在住の方を対象とした聞き取り調査を行いました。実際に自動運転車両やミュージアムを見ながら、今後の自動運転技術導入や地域拠点の設計・計画についてご意見を伺いました。また、デマンドバス(タクシー型バス)の利用可能性についての調査では、「利用予約の締め切りがいつか」が利用率を大きく左右するといった重要な示唆を得ることができました。